

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800477		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家久米		
所在地	岡山県久米郡久米南町上神目436		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成26年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、看護師が常勤でいる為、普段よりサービス向上会議で個々の事例検討を行ったり、全職員で情報を共有するなど、入居者様の健康管理に特に力を入れている。
 QOLを低下させないためにも褥瘡予防に取り組み、身体の清潔と食事摂取量が減ってきたら、早期に栄養強化食品や高タンパク食品を取り入れ低栄養状態の改善を図ることにより、医療処置が必要な褥瘡を作っていない。
 昨年度より協力医療機関に往診可能な歯科が加わり、随時指示や往診をして頂ける事により、安心した生活支援が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化が進む地域にあつて、行政・自治会役員・消防団・園児・学童などとの交流に取り組み、長い関わりのなかで地域の一員としての存在が定着してきています。医療ニーズの高い利用者や若年性疾患の方も受け入れており、提携医や看護師(責任者)のこまやかなサポートもあり、利用者の健康管理が行き届き、対話を重視しながらスタッフが協力してケアにあたっています。毎日一緒に買物に行き、献立を考え、野菜を収穫し、準備や食事を楽しみ、個々の希望に添いながら、普通の暮らしを支援している様子をうかがうことができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及び基本指針を基調とし毎月のサービス向上会議並びに半期に1度の人事評価で実践できているか確認している。	法人の理念をもとに事業所独自に目標を定めており、スタッフ間で話し合い確認しながら、その人らしい普通の生活を支援するために力を合わせて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域の方とGHが孤立しないようにしている。また地域の園児・児童生徒らに、年に数回訪問して頂いている。	小学生の福祉学習の受け入れ、中学生の職場体験、保育園児との交流など楽しみにしています。いきいきサロンの方や愛育委員の訪問(生け花・お茶の講師、行事参加)など地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は法人グループの(医)日笠クリニックの医師による認知症理解の講演などを行ったが今年度は実践出来ていない。来年度は地域の方を招いた日帰り旅行を検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・行政・自治会などの意見を聴き取り、反映するように心がけている。今年度より提携薬局の管理薬剤師さんにも参加して頂き薬剤師の立場からの意見も反映させている。	家族・愛育委員・社会福祉協議会・町保健福祉課・自治会などの参加を得て開催し、今年度は薬剤師を招いて話をしてもらうなど工夫し、そこでの意見をサービス向上に活かしています。	2ヶ月に一度の開催を目指して、これから家族・地域・行政との連携を深めながら取り組んでいかれることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは頻りに連絡を取り合い、随時対応を行っている。	定期的な報告のほか、酸素吸入者の受け入れや後見人・補佐人についてなど、日頃からいろいろ相談しながら、良好な関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は国道沿いにGHが位置しているため、施錠をしているが玄関等は、常に開放し入居者様が自由に出入りできるようにしている。	勉強会などで学ぶとともに会議で話し合い、言葉づかいや態度など、気づいた時にその都度スタッフに注意し、利用者の行動を観察しながら、安全に配慮し身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を構成し、2名の委員長の下に虐待に関する情報や学習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、身元引受人の要望等を十分に考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様担当者が定期的に意見を伺いケアプランの作成前、お渡しする時に、ご家族の意見等を聴き取りし行事や普段の生活に反映させている。また運営推進会議や愛育委員などの意見も反映させている。	運営推進会議や面会時に家族から聞き、利用者と一緒に向き合いながら要望を引き出すようにしており、思いを汲み取りながら、それらを反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期であるがサービス向上会議や随時職員の意見を聴き取りし、また管理者会を2ヶ月に1度開催し意見を反映させている。	会議で話し合うとともに、責任者は日頃からスタッフのさまざまな悩みや相談に応じており、コミュニケーションをとりながら、意見や提案の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他の営利介護事業者よりは、給与・待遇は良い体制である。また職員が金銭的に困難時も法人として援助を行い、勤務し易い体制を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上会議で行っている。 OJTを常に行いサービス向上に努めている。 新入社員には奇数月に開催される社内の新人研修に参加し知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人と必ず面談を行うのが基本になっている。計画作成者が自宅や入院先へ複数回訪問し、訴えを傾聴し人間関係を築けるように努力している。(顔なじみの関係を作っておく。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや家族の状況を把握できるよう何度か面談を行う。ホームで出来ること、出来ないことを説明しできるだけ要望に添えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の相談の中からグループホーム入居が適切なのか見極め希望の必要性を明確にし本人家族にとってグループホーム以外の施設が適切と判断したなら他施設への方向性を伝え協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の得意な分野を利用して頂き、畑作業や遊び・言葉・昔ながらの料理の味付け等を教えていただき、お互いに学び、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様担当スタッフを決め、家族と連絡を取り合い相談し、面会や外出をお願いして利用者の心のケアの支援を行っている。2か月に1回和楽だよりとして入居者様の普段の様子を記入し郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者に対して、気軽に面会できる雰囲気作りを心がけている。昔ながらの知人や友人が面会に来られた際は、楽しく談話できるように支援している。	友人・知人の面会、買物、通院、行きつけの美容院への同行など、家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないようレクリエーションの際に職員が間に入り他者との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、必要があれば随時相談に乗らせていただくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の言動を観察し本人の意向希望の把握に努めている。サービス計画書の作成には職員の提案を含めて検討できるよう各ユニットで、サービス向上会議を行っている。	一人ひとりに向き合い対話しながら、家族からも聞き取り、生活史作りに取り組んでいます。たまにはビール(ノンアルコール)を楽しむなど、思いや意向を把握し本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族から今までの生活の様子を伺って、各職員が資料を読み把握し対応するように努めている。今年度は生活史を作成した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の生活のリズムを大切に食事時間や食事場所、過ごし方等本人の希望を一番と考え支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いて介護職員と話し合い要望に添った計画で支援している。	必要に応じてモニタリングを実施し、本人・家族・医療・関係者の意見やアイデアを参考に、カンファレンスを行い、それらを反映しながら現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を個別に記録し職員全員が実践に活かせるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望や家族の状況に合わせてサービスを可能な限り提供できるよう柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期ではあるが地元の愛育委員の方等に、生け花やお茶を教えていただき余暇を楽しんでいる。毎年地元の中学生の職場体験や、小学生の福祉学習の受け入れを行い、地元の子供達との触れ合いを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(嘱託医)に毎週水曜日に往診に来ていただいている。入居前より掛かりつけ医があり、治療を継続したいというご家族やご本人の希望があれば、今迄通り希望の病院へ受診している。	提携医の往診や緊急時の対応、職員としての看護師の配置、従来のかかりつけ医への受診など、家族の協力も得ながら、適切な医療を受けられるように支援しています。口腔ケアにも力を入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設のケアマネージャーが看護師で、入居者様の状態を職員から情報収集し健康管理に努めている。必要があれば嘱託医に連絡し指示を受け対応している。職員にも知識や対応について指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師やソーシャルワーカーに必要な情報提供を行い早期退院にむけて協力している。ご家族とも連絡をとり情報交換している。ご本人の状態の把握と信頼関係保持の為、週1回程度のお見舞いや、必要な方には洗濯物の支援もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設で対応できる最大の支援内容をご家族に説明しご理解いただいている。状態が悪化された場合には、嘱託医からご家族に状態の説明をしていただいている。	看取り介護サービス対応指針を定め、事業所でできることを説明して同意を得ており、主治医と連携をとりながら24時間の対応を行い、チームで支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は3月24日に津山県国消防組合久米南出張所に依頼し、救命講習を職員全員が受ける予定である。また施設にAED設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、今年度の内1回は夜間訓練を実施し地元消防団や地域の方に協力をお願いした。入居者様が災害時に安全に避難できるように定期的な訓練を行っている。	夜8時に訓練を実施し、消防団の方に手伝ってもらって利用者全員無事避難できたとのことです。消防署の立会いや近所の人の参加もあり、協力体制が築かれ今後につながる取り組みがなされています。	災害対策は多岐にわたると思いますが、地域や消防団との連携を密にし、あらゆることを想定して、準備・点検・話し合い・訓練を重ね、安全・安心につなげていかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを基本にプライバシーの確保に努めている。サービス向上会議にて勉強会を行い、職員の意識の向上を図っている。	一人ひとりに向き合い、背景・病状・趣味・嗜好など、その人らしさに合わせた言葉かけや対応をこころがけています。同性介助など羞恥心への配慮もなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様に応じての声かけを行い、できるだけご本人の思いや希望を導きだせるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の健康状態や精神状態に合わせて、無理がないようその方のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の有資格者がおり、ご本人やご家族の希望に合わせてカットを行っている。更衣についても、ご自分で服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り担当となった職員が入居者様に好みのメニュー尋ねたり、好評であったメニューを取り入れ食事作りを入居者様と一緒にやっている。車椅子の方にも座ってできる作業をしていただき、孤立しないように配慮している。	利用者とともに毎日買物に行き、好みを活かし、突然メニューを変更したり、畑の野菜を利用し、できることを一緒にしながら、準備や食事を楽しんでいます。たまには配食弁当を取り寄せ、皆でテーブルを囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や高血圧・腎臓病の方で制限のある方に対しては個別で対応している。水分摂取表をつけ1日1000ml以上摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び起床時、眠前には個別に口腔ケアを行っている。できる限りご自分でできるようにできることはご本人に行っていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に基づき個々に合った排泄介助を行っている。失禁のあった際にはプライバシーに配慮し素早く対応し羞恥心面の配慮にも気を配っている。定期的に排泄誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援を行っている。	排泄表をチェックして定期的に誘導し、夜間も含めてできるだけトイレでの排泄をこころがけ、自立に向けて支援しています。失禁時にはシャワーを使用してすばやく対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食物繊維の多い食材を取り入れたメニュー作りを行っている。また排泄表及び水分摂取表に基づき水分を1日1000ml以上摂れるように管理している。個々に応じた軽い運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助表に基づき最低週3回は入浴できるように個々に合わせた援助をしている。ご本人の体調や気分により入浴できなかった場合は清拭を行っている。	浴室は広く、浴槽の両側からのサポートが可能で、シャワーチェアも利用できます。毎日の入浴や失禁対策、同性介助など個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻は厳しく規制せず個々に合わせている。不眠であった方に対しては、居室で午睡等で休息をとっていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬の説明書を薬局よりいただき、職員がいつでも目の通せるようにしている。服薬の際には服薬確認表に基づき服薬管理を厳重に行っている。提携薬局の管理薬剤師による勉強会を随時行って職員の服薬に対する理解を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣向に合わせてご本人の意思でレクリエーションが行えるように支援している。ご本人の了解を得て、できあがった作品をホールや居室に展示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物や必要な物がある場合には、可能な範囲で外出介助している。	菜園、庭のベンチ、フェンス内の散策、毎日の買物などのほか、希望によりドライブしたり、各種行事で出かけるなど、外出の機会を増やすように取り組んでいます。今年度の目標に定め、車を確保し、家族や地域との交流についても計画しています。	これからも個々の希望に添いながら、スタッフだけでなく、家族や地域の方たちと協力して出かけられるように、楽しみが持てるような支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はお金を所持し必要な物を購入している。その他の方についてはその都度家族に連絡し、家族の希望があれば立て替え購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂いている。かけられない方は、職員が支援し電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには自宅と同じように生活感のある雰囲気になっている。季節に応じた花や利用者の作品を飾っている。利用者が使用するものは、手の届く所に置いて自由に使ってもらっている。	室内は明るい色調のつくりで、高い天井には天窓が設けられており開放感があります。作品展示や季節の飾りがなされ、カラオケセットも置かれ、利用者それぞれの定位置があり、家庭的な雰囲気で落ち着いて過ごせるように配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間として自由に和室で横になれるようにしている。またご家族との団欒の場として使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の慣れ親しんだ家具や装飾を置いている。家族にも馴染みの物を置く必要性を日頃から説明している。居室や共用スペースにも利用者の方が飾りつけし自分達の部屋として工夫している。	なかには布団を敷いて利用している方もおられ、馴染みのものを持ち込んで、思い思いに配置して、本人が居心地良く過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得て自分の居室と分かる名札をつけたり必要に応じて自分にわかる飾りつけをしている。トイレには大きく便所と表記している。手すりを設置し、安全に行動できるように支援している。		